

1-9-25

ドック健診における血管内皮機能検査

三井記念病院総合健診センター¹⁾

三井記念病院中央検査部²⁾

○石坂^{いしざか} 裕子^{ゆうこ}¹⁾、綾部 由香²⁾、戸田 晶子¹⁾、谷 瑞希¹⁾、
遠田 栄一²⁾、山門 實¹⁾

【目的】 指尖容積脈波測定を行い、健診の結果との関連を検討し、ドック健診に指尖容積脈波測定が導入可能かを検討すること。

【方法】 2日ドック男性受診者27名の reactive hyperemia index (RHI) の測定を行った。測定装置は血管内皮反応測定・記録装置：エンドパット 2000を使用した。

【結果】 指尖容積脈波の測定には平均して30分を要した。RHIはBMI > 25では 1.65 ± 0.40 、25以下では 1.66 ± 0.40 、腹囲85cm以上では 1.62 ± 0.31 、85cm未満では 1.66 ± 0.40 であった。その他LDL高値、HbA1c高値、HOMA-IR高値、血糖2時間値高値の方がいずれもRHIは低値を示した。

【考案】 内皮機能低下の有無を検査することは重要であり、RHI測定は有用で

あると考えられる。今後、RHIの測定を健診に導入するためには、検査スケジュール、検査対象を考慮する必要がある。